

報告

Communicating Astronomy with the Public 2011(CAP2011) 参加報告

矢治健太郎 (立教大学)

1. CAP2011について

2011年10月10日-14日に、中国・北京市内の西安ホテルで「Communicating Astronomy with the Public 2011(CAP2011)」という国際会議が開催されました[1]。サブタイトルは「New Territories for Science Outreach」。この国際会議、前回は2010年3月に南アフリカのケープタウンで開催されました。このときも私は出席していたので、そのときに知り合ったメンバーと再会することができました。

今回の会議では、約18ヶ国から50人が参加しました。日本からは4人が出席。国立天文台ハワイ観測所の藤原英明さん、同じく国立天文台の縣秀彦さん、関口和寛さん、そして、私です。アジアからの参加も多く、中国はもちろん、香港、インドネシア、スリランカ、フィリピンから参加者がいました。フィリピンからの参加者のセセさんは筑波大学の大学院生だったそうで、日本語が割と通じました。

CAPは、天文教育普及をテーマにした国際会議で、2003年からだいたい隔年で行われています。ただ、どちらかというと大学とか天文台とか研究機関が研究者主体となって行っているアウトリーチの発表・報告が多く、学校の先生やアマチュア天文家の参加者は少なかったです。

2. ホットトピック

私は大学の講義の都合で、2日目(11日)の午後から参加しました。初日と2日目の午前は、「世界天文年2009のその後」ということで、各国の取り組みについて報告がなされました。世界天文年が一過性のイベントにとどまらず、継続的に取り組んでいることがわかります。

その他のホットトピックとしては「Universe Awareness」[2]というキッズ向けの取り組みが関心を引きました。また、ヨーロッパ南天天文台(ESO)のEPO部門のパワーを随所に感じました。「Outrageous Outreach」(意識すると、型破りなアウトリーチ?)と銘打ったユニークな取り組みの発表もありました[3]。具体的にはアクション映画やファッションショーとのタイアップした活動などです。

アジア各国のアクティビティも目立ちました。香港の光害下の都市部での観望会の取り組み、インドネシアのSNSを使った天文コミュニティへの情報発信など。TwitterやFacebookなどSNSの活用事例も多く、多くの国から報告がありました。藤原さんからはすばる望遠鏡の広報・アウトリーチについて発表がありました。

4日目の午後には、4つのテーマに分かれてグループディスカッションが行われました。テーマの一つに、金星太陽面通過があり、国際的に関心が高いことが伺えます。「日本ではどうするんだ?」という質問がありました。ただ、日本はその前に「金環日食」があるので、そこまで話が進んでないと答えました。



図1 会場の様子、筆者(左)が発表中

3. ひのでの教育・アウトリーチ活動

私は、3日目の12日に「Advanced Challenges for Communicating New Sun with Hinode Satellite」という題で、口頭発表を行いました(図1)。PAONET ひのでデータ活用ワーキンググループ[4]で進めている、太陽観測衛星「ひので」の教育・アウトリーチ活動についての発表です。前回、ケープタウンで参加したときも、ひのでのアウトリーチについて発表しましたが、そのときは、ひのでのことを知っている人は非常に少なかったのですが、今回はさすがに増えていました。今回は特に、ここ2年ほど進めている高校生や科学館・公開天文台とひのでの同時観測について発表しました。ひのでの最近の観測成果についても紹介しました。質疑応答ではこの取組の「ゴールはどこか?」という質問がありました。会場では、ひのでの英語版のDVDを配布しました。また、DVDコンテンツの一つである「太陽のおくりもの」をPDFにして英語版にしないかという話がUniverse Awarenessのリーダーをしているペドロ・ルツ(ライデン天文台)からあり、「いい話なので検討しておきます」と返事しました。

4. 最後に

最終日の最後に、SOCのデニス・クラブツリー氏(カナダ)が、講演の抽象トクかに頻出するキーワードをこの会議の総括を元に行いました(図2)。

世界天文年(IYA2009)、メディア(media)国際性(international)、児童(children)聴衆(audience)、読みやすさ(readability)、国際天文月間(Global Astronomical Month)金星太陽面通過(Transit of Venus)、型破り?(Outrageous) などなど。多様なテーマ・観点の発表があったことがわかります。

次回は2013年の開催予定。ただし、まだ場所は未定。次回は日本からもっと参加者が出て、日本国内の天文教育普及の事例が報告されることを期待しています。

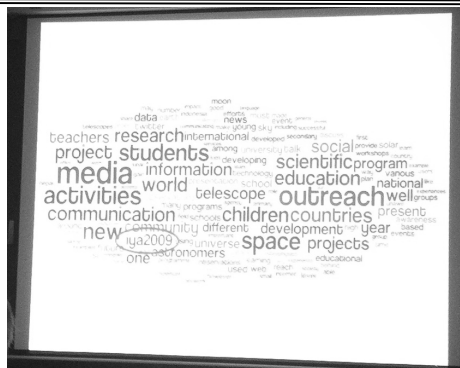


図2 クラブツリー氏が示した、会議中に登場したキーワードを示したスライド

なお、2012年8月に行われるIAU総会(中国北京)では、8月29日-31日に「Communicating astronomy with the public for scientists」というセッションが行われます。

文献

- [1] <http://www.communicatingastronomy.org/cap2011/>
- [2] Sandu, O., Outrageous Outreach(2011), CAP Journal, 11, 22
- [3] Universe Awareness, <http://www.unawe.org/>
- [4] 矢治健太郎・他(2008)「PAONET ひのでデータ活用ワーキンググループの活動」, 天文月報, 101, 565



矢治健太郎

SOCのイアン・ロブソン氏(左)とともに